



『UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援ガイド アドバンス・コース 「母乳育児成功のための10ヵ条」の推進』

評者・栗野 雅代 あわの産婦人科医院

母乳育児の科学的証明によって、乳幼児のみならず母親と家族、社会にとっての母乳育児の利点とその意義が明らかとなっている。最近では関連書籍も多く発行され、種々の研修開催によって支援者の知識も向上した。その一方で、現場の医療者からは、さまざまな疑問やジレンマに困惑するといった声も多く聞かれる。

本書は、UNICEF/WHO が母乳育児の促進を目的とし、指導的立場にある病院長、管理者向けに、系統的、多面的にまとめたものである。また、母乳育児の保護、推進、支援の意味を明確に解説し、また病院が「赤

ちゃんにやさしい病院」認定を受けるまでのプロセスを具体的に示した手引書でもある。

構成はセクション1の「背景と実施」で、国、病院として実施すべき支援内容とBFHのための評価基準を解説し、母乳代用品のマーケティングに関する国際規準の意義と解説を網羅している。セクション2の「BFHIの強化と維持：方針決定のためのコース」では、母乳育児を阻む諸問題への解決策のほか、母乳育児を具体的に推進するために、病院の意思決定者（院長、経営者、部門責任者ら）や政策決定者にBFHIの影響と理解を促す内容となっている。

母乳育児の利点については、2003年に出版された「18時間コース」にはなかった「10ヵ条」の科学的根拠について詳細な文献レビュー

母乳育児を成功に導く ガイダンス



BFHI 2009 翻訳編集委員会 訳
定価 7980 円 (本体 7600 円 + 税 5%)
B5判 / 医学書院 / 2011 年

を提示しながら説明している。また、スタッフ教育の効果的展開をめざし、コースの開催方法や母乳育児継続にまつわる具体例を記載し丁寧に解説しているため、いわば教育コース実施者のための有用なガイドとなり得る。

セクション4の「病院の自己査定とモニタリング」には、病院がBFHの評価基準を満たし「10ヵ条」をすべて実行しているかどうかを確認するためのガイドラインとツールが記載されており、BFHとして外部アセスメントを受ける準備ができてい

るかどうかを評価できる。母乳育児は世界中の母子に対して、さまざまな利点が証明されているが、その実践は時に障壁に妨げられ、疲弊をもたらすこともある。それは、個々の支援者の知識や熱意だけでは限界があることを意味する。母乳育児には支援者1人ひとりの個としての努力も必要とされるが、病院、地域、行政、国レベルでの取り組みも必須である。

2009年に発行された「赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース」は、支援者と管理者にとっての実践編であり、本書は専門家や管理者にとって、母乳育児を成功に導く際に不可欠なガイダンスである。これらを有効活用し、赤ちゃんとお母さんにやさしい病院と社会の構築、実現に役立てていただきたい。